

主な資料館等と展示品

■南部町祐生会いの館/南部町歴史民俗資料館

住所：鳥取県西伯郡南部町下中谷 1008
 電話：0859-66-4755
 アクセス：米子駅から日の丸バスで上長田行き・大木屋行き「緑水園前」下車
 休館日：毎週火曜日、年末年始（12月29日～1月4日）
 入館料：一般300円、大学生・高校生200円
 中学生以下無料（団体15名以上は2割引）
 ここで見られる主な文化財：鉄造聖観音立像、鉄造十一面観音立像附鉄製光背
 旧日ノ丸自動車法勝寺鉄道車両附関連資料一括（※関連資料のみ）

■大山寺宝物館霊宝閣

住所：鳥取県西伯郡大山町山43
 電話：0859-52-2072
 アクセス：米子道米子ICより車で県道24号線（大山観光道路）経由、博
 労労駐車場まで約15分。大山寺参道を徒歩約10分
 または、JR米子駅から日交バス大山寺行で約50分、バス停
 大山寺下車、大山寺参道を徒歩約10分

休館日：冬季（12月1日～3月31日）
 入館料：一般300円、小・中学生200円（団体20名以上は割引あり）
 ここで見られる主な文化財：銅造十一面観音立像、銅造観世音菩薩立像【一覧】

■たたら楽校・根雨

住所：鳥取県日野郡日野町根雨 645番地
 日野町公会
 電話：0859-72-0249（日野町商工会）
 アクセス：JR根雨駅から徒歩10分程度
 休館日：月～金

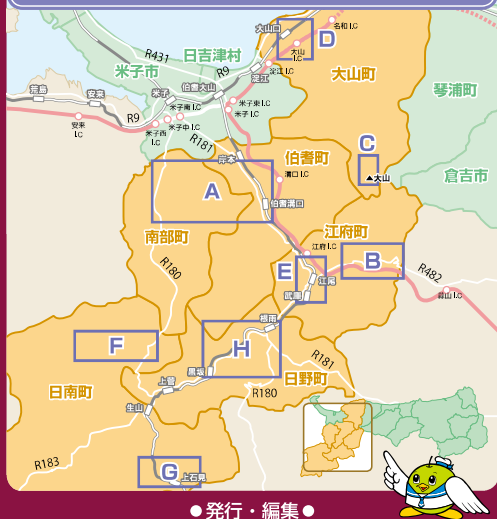
■日野町歴史民俗資料館

住所：鳥取県日野郡日野町根雨 497
 電話：0859-72-2107
 アクセス：JR根雨駅から徒歩5分
 ※入館には事前に日野町教育委員会に連絡が必要
 入館料：一般200円、高校生100円（団体15名以上は割引あり）

これまでの発行
 鳥取県文化財課のホームページ「おしらせ」でvol.1～5がご覧になれます。
<http://www.pref.tottori.lg.jp/121069.htm>
 とっとり文化財NAVIで文化財を探せます。
<http://db.pref.tottori.jp/bunkazainavi.nsf/index.htm>

本紙の掲載地域の位置

(南部町、伯耆町、大山町、日南町、日野町、江府町)



●発行・編集●

鳥取県教育委員会事務局文化財課

〒680-8570 鳥取県鳥取市東町一丁目271番地
 電話 0857 (26) 7937 / FAX 0857 (26) 8128

本紙で使用している地図は、国土地理院長の承認を得て、同社発行の5万分の1地形図を複製したものである。（承認番号 平24情復 第346号）
 本書で使用している地図の複製品をさらに複製する場合は、国土地理院長の承認が必要です。また、本書の内容を複写し掲載するには鳥取県教育委員会の承認が必要です。

地図 F



1 楽楽福神社社叢 (県指定天然記念物)
 日野川の支流、印賀川上流の左岸にある丘陵地の尾根の東南端、標高約430～460mに位置する。
 高木層にはコナラ、モミが垂高木層にはモミの幼木が多く、アカンデやウリカエド等が、低木層にはモミの幼木がや多く、アセビ、ネサルトリイバラ等がほぼ一緒に入っている。落葉広葉樹林から常緑広葉樹林に遷移する途中相を示しており、本社叢はそうした林相を示す、一典型とみなすことができる数少ない中間帯的環境における学術的な参考林として価値が高い。
 ※JR山根駅からバス大宮線で約20分、学校前下車、徒歩1分

2 印賀宝篋印塔 (県指定保護文化財)
 相輪の一部を欠くが、笠部、塔身、基礎、基壇が完存しており、総高は2.4mである。
 塔身は方形で、現在は摩滅してほとんど読めないが、正面に銘文が彫られている。そこから法華経を供奉し、自らの死後の安楽を生前に願った印賀付近の武士団により建てられたと考えられる。宝珠や笠、隅飾に室町時代初期の特徴を示し、全体に安定感のある優美な形状である。
 ※JR山根駅からバス大宮線約15分、古市下車、徒歩15分



3 上石見のオハツキ・タイコイチョウ (県指定天然記念物)
 JR上石見駅の北約200mに位置する大石見神社の石段を登りきった両側に2本のイチョウの巨木が植えられており、右側の1本が天然記念物に指定されている（胸高直径約1.3m）。オハツキ・タイコイチョウは、種子が葉の上で結実し、2個の美がついて太鼓形になる異形のイチョウである。幹に多数のコブ状の隆起が認められることも特徴である。
 ※JR上石見駅から徒歩5分



4 根雨神社社叢 (県指定天然記念物)
 根雨神社は、根雨市街地西方の現社殿域と同市街地東方の旧社殿域（現、高尾神社）の両方に社叢があり、両者とも天然記念物に指定されている。
 旧社殿域の方は、標高約200～300mの尾根の末端に位置する。現在のところ、県下に残っている最もよく発達し成熟したシラカシ・ウラジロガシ林であり、樹高約25mのシラカシを代表に大木が散見される。たぐい希な優れた照葉樹林として学術的に価値が高い。
 ※JR根雨駅から徒歩7分

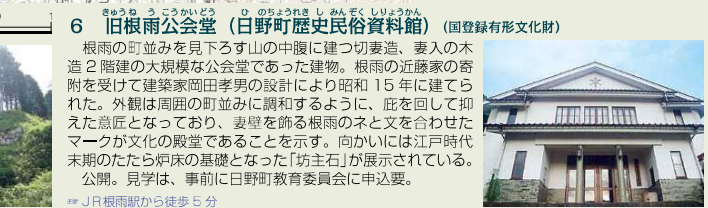


地図 H

長楽寺
 木造薬師如来及び両脇侍像 (国指定重要文化財)
 木造毘沙門天立像 (国指定重要文化財)
 木造不動明王立像 (国指定重要文化財)

5 鏡山城址 (黒坂城跡) 1:50,000
 JR黒坂駅の西側にある山城。山頂部にある郭群と山麓部の館跡が見られる。もともと中世に築かれたと思われる山頂の郭群に対して、山麓部は慶長15年（1610）に関一政が5万石の大名として入城した後に、枳形虎口などを整備したものと考えられる。
 ※JR黒坂駅から、山頂まで徒歩約30分

6 旧根雨公会堂 (日野町歴史民俗資料館) (国登録有形文化財)
 根雨の町並みを見下ろす山の中腹に建つ切妻造、妻入の木造2階建の大規模な公会堂であった建物。根雨の近隣豪家の寄附を受けて建築家岡田孝男の設計により昭和15年に建てられた。外観は周囲の町並みに調和するように、庇を回して抑えた高意となっており、妻壁を飾る根雨のネと文を合わせたマークが文化の殿堂であることを示す。向かいには江戸時代末期のたたら炉床の基礎となった「坊主石」が展示されている。
 公開。見学は、事前に日野町教育委員会に申込要。
 ※JR根雨駅から徒歩5分



Vol.5 文化財めぐり

〔西伯・日野郡編〕



写真：大山のダイセンキャラボク純林（地図C）

今回は、大山町・伯耆町・南部町を含む西伯郡の一部と日野町・日南町・江府町を含む日野郡を取り上げました。
 西伯郡はかつて伯耆国に含まれ、戦国時代には守護山名氏をはじめ尾子・毛利・織田といった他国の勢力が進出し、激しく争っていたと伝えられ、今でも各地に当時築かれた城跡が残っています。
 また、中国地方随一の信仰の山、大山には多くの僧坊が建立されるとともに、庶民や武将など地域の有力者から信仰を集めました。大山周辺には信仰とも関わりの深い美術工芸品、建物や無形民俗文化財を見ることができます。
 日野郡は当時たたら吹鉄が盛んで、郡内に残るたたら跡からはかつての繁栄の様子を窺うことができます。「たたら楽校」での関連資料の展示や、シンポジウムの開催など、たたらによる町おこしも行われています。

7 長田神社社叢 (県指定天然記念物)

法勝寺川に面して突出する尾根を占めて位置し、面積約3.5haで県下最大級を誇る。

群落型は大きく3つに分けて考えることができ、第一は大部分を占めるスダジイ林で、サカキ、クロキ、クロガネモチなども散見され、第二はタブをまじえたウラジロガシ林で、第三は、前記二者の移行型と思われるシトとサカキの林である。また、巨樹も多く、その最大胸高直径は、スダジイで1.6m、ウラジロガシで1.1mに達する。このような種生を形成する社叢は県下にはあまり見当たらず、山陰地方の内陸における暖帯下部の常緑広葉樹林の一型とみなすことができ学術的に価値が高い。

JR米子駅からバス(法勝寺線)で20分、役場入口下車、徒歩2分



地図 C



8 石製鴟尾 (国指定重要文化財)

鴟尾は、古代の瓦葺宮殿・仏殿の屋根の両端に取り付けた飾りであり、これは白鳳時代創建と推定される大寺廃寺のものと考えられている。高さ1m、幅45cmで、鑄が10段に刻まれている。鴟尾は瓦質製のもの一般的で、石製のものもよく見つかっている。

JR岸本駅から徒歩15分

地図 A

9 新守神社 (馬佐良の申し上げ) (県指定無形民俗文化財)

馬佐良集落で祀られている神社。境内には荒神が祀られ、毎年12月初旬に「馬佐良の申し上げ」が行われる。新稲藁で編んだ長さ約7mの藁蛇、荒神幣が奉納される。また荒神の玉垣内に埋めてある瓶に甘酒と団子を奉納し、中に残っている液体の量で新年の農作物の吉凶を占う。同種の行事は県西部の各地で行われているが、神饌献上、年占など、祭りの古態をよく残している。

JR米子駅から日ノ丸バス(法勝寺線)で40分、法勝寺下車、南部町丸あいでい線環線(反時計回り)に乗換え10分、馬佐良下車



15 所子の町並み

伯耆地方の大型集落を代表する、明和6年(1769)建築の門脇家住宅(国指定重要文化財)をはじめ、南門脇家住宅、東門脇家住宅、美甘家住宅など、江戸時代後期から昭和にかけて建てられた歴史的な建物が多く残る。建物のほかに、集落の中心部を通る大古道や水路、六地藏や周辺の田畑など、江戸時代から続く農村集落の風景をよく伝えている。

JR大山口駅からバス(大山線)で5分、所子入口下車、徒歩5分、または大山ICから車で約5分

地図 B

10 矢田貝家住宅 (国登録有形文化財)

地主経営や醸造業を営んだ矢田貝家の住宅で、日野川東岸に位置する。近世末期に建てられた主屋は当地方の伝統的な民家形式をよく伝えている。また、昭和初期に宅地を拡大して造営された庭園や付属屋が複数残る。中でも2棟の茶室は開放的で、瀟洒な接客空間を造り出し、広大な庭園とあわせて近代の風情豊かな屋敷構えを伝えている。現在は蕎麦屋として活用されている。

JR伯耆溝口駅から徒歩15分



18 旧江尾発電所本館 (国登録有形文化財)

大正8年に山陰電気株式会社によって建てられ、昭和52年まで稼働していた旧水力発電所施設。県内では珍しい石造建築で、2階建の北館と平屋建の南館で構成されている。

軒にはコーニスと呼ばれる段状の装飾が施されるほか、窓の上部のデザインに数種類のアーチ型を使い分けするなど、西洋建築の様式が取り入れられ、地域のランドマークともなっている。

通常内部非公開。

JR府ICから車で約5分

地図 D

19 江尾のこだい踊 (県指定無形民俗文化財)

毎年孟蘭盆17日の夜に城内を解放し誇りと相撲の会を催した江美城主主将塚安房守が、毛利軍に攻められ滅亡した後、城主を慕って供養のために踊られたと伝わる。8月17日の江尾十七夜の宵に、編み笠、浴衣姿の踊り子多数が、太鼓、笛に合わせて優雅に踊る。戦前は東祥寺の園庭で踊られていたが、現在は江美神社の上ノ段広場で踊られている。

JR江尾駅から徒歩5分



16 助沢正平五輪塔 (県指定保護文化財)

この五輪塔は地輪に「正平十五年(1360)庚子三月日」の紀年銘が刻まれており塔の制作時期が明確なことに加えて、正平が南朝の年号であることから、当時、伯耆国が南朝方の山名氏氏に支配されていたこととの関係が推測される貴重なものである。

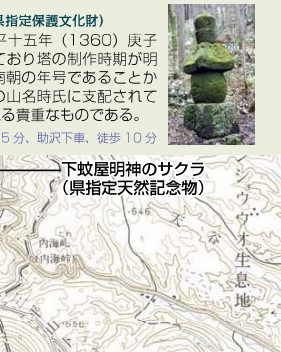
JR江尾駅からバス(下飯線)で15分、助沢下車、徒歩10分

地図 E

20 武庫の七色ガシ (県指定天然記念物)

JR白備緑武庫駅の南方、明倫小学校裏の山麓に立つシラカシの古木であり、胸高直径65cm、校張りは南北10m、樹高約18m。伝説によると、今の武庫の一面の水田は昔は湖(ふち)で、大蛇が住んでいたが、この湖が水田になったことにより大蛇の住むところがなくなり、このカシに巻きついたと伝わっている。よって別名蛇ガシとも呼ばれ、カシの木に傷をつけると血が出るのと言い伝えがある。七色ガシは、季節毎に、紫色(4月)→黄色(5月頃)→白色(6月)→赤色(7月)→緑色(8月)→青黒色(9月下旬~翌3月)と葉の色を順次変えていくことから、この名がつけられた。

JR武庫駅から徒歩10分

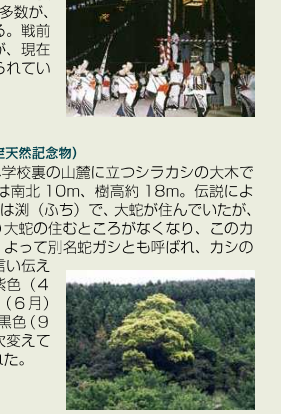


17 江美城跡

文明年間(1564)尼子方に属していた蜂塚右衛門尉は毛利勢に攻められ落城した。その後も日野地方を抑える要衝として重視され、本丸は織豊期に石垣を備えた城に整備された。発掘調査により金箔鱗瓦が出土したことも注目される。

JR江尾駅から徒歩5分

地図 F



21 下飯屋明神のサクラ (県指定天然記念物)

11 大山僧坊跡

平安時代後期から「修験の山」として信仰を集めた大山には、幕末まで40を超える僧坊が築かれていた。僧兵もいたとされる僧坊跡は石垣等に囲まれた区画として、登山道、神社参道沿いに今も多く残されており、当時の栄華を伝えている。

各地方から大山僧坊に至る道は大山道と呼ばれ、中国地方一円から多くの方が往來し、信仰の心を通わせていた。

JR伯耆大山駅から車で約20分、米子ICから車で約15分

12 大山寺阿弥陀堂 (国指定重要文化財)

阿弥陀如来及び両脇侍像 (国指定重要文化財)

大山寺は、寺伝によると奈良時代の開山と伝わるが、詳しいことは分かっていない。現在の建物は5間四方、扉根はこけらぎの宝形造で、16世紀中頃、大洪水の後再建された。その際古材が使用されたため、建築様式に鎌倉時代の様相もとどめている。阿弥陀堂の本尊として阿弥陀三尊像が安置されており、中尊である阿弥陀如来の胎内銘から天承元年(1131)3月から6月にかけての仏師良戸の作であることがわかる。山陰地方を代表する平安時代後期の定朝様式の優れた作品である。

JR米子駅から日交バス(大山寺行)で約54分、大山寺下車、徒歩約15分、またはJR大山口駅から日交バス(大山寺行)で約30分、大山寺下車、徒歩約15分

13 石室・梵字ヶ池 (大山のもとり神事) (県指定無形民俗文化財)

大山頂上付近に位置し、「大山のもとり神事」が行われる。神事は、7月14日に大神山神社奥宮で夕祭が行われた後、15日深夜1時半の派遣祭を経て大山山頂へ向かい、石室で神楽執行、梵字ヶ池で露水、その周辺で菓葉を採取する。江戸時代は、大山寺と同じように写經と経筒簡納を伴う弥山禪定と行われていたが、廃仏毀釈を受けて現在の大神山神社奥宮を主体とする形に変わった。

大山山頂登山道入口から徒歩3時間程度

14 大神山神社奥宮 (国指定重要文化財)

もとは伯耆大山寺の大智明現社で平安時代後期の創建と伝えられるが、その後火災焼失、移転を繰り返し、文化2年(1805)に現在地で復興した。現在の建物は江戸時代後期を代表する神社建築。壮大な権現造で、拝殿と本殿を幣殿で結び、拜殿の左右には長い回廊がとりつく。内部は美しく彩色され、幣殿の格天井には華麗な華鳥人物が描かれている。敷地北側には、末社大山神社(国重文)があり、これも奥宮同様、権現造となっている。

JR米子駅から日交バス(大山寺行)で約54分、大山寺下車、徒歩約20分、またはJR大山口駅から日交バス(大山寺行)で約30分、大山寺下車、徒歩約20分

15 所子の町並み

伯耆地方の大型集落を代表する、明和6年(1769)建築の門脇家住宅(国指定重要文化財)をはじめ、南門脇家住宅、東門脇家住宅、美甘家住宅など、江戸時代後期から昭和にかけて建てられた歴史的な建物が多く残る。建物のほかに、集落の中心部を通る大古道や水路、六地藏や周辺の田畑など、江戸時代から続く農村集落の風景をよく伝えている。

